



燃え広がらない 燃えないまちの実現に向けて

◇事業目的

区内南西部に分布する木造住宅密集地域は、首都直下地震等の大規模災害発生時において、火災の延焼により甚大な被害が想定されている。

木造住宅密集地域を燃え広がらない、燃えないまちへ転換するため、避難や消防活動等救援のために有効な道路の拡幅や発災時の一時集合場所となる防災広場の整備など社会基盤の整備を進め、延焼が危惧される木造建築物等の除却および不燃化を促進する施策を展開し安全・安心のまちづくりを推進する。

◇事業内容

1. 木造住宅密集地域内の脆弱な社会基盤の整備 (H29. 11 末現在)

(1) 避難や緊急車両の進入のために有効な道路の拡幅

平成元年から計 約 2,100 m²を拡幅

(2) 発災時の一時集合場所となる公園・防災広場の設置

平成元年から計 37 カ所・約 19,400 m²を設置

2. 木造建築物等の除却、建替え等の支援 (H29. 11 末現在)

(1) 老朽木造住宅等の除却助成

平成 25 年から計 386 棟に助成 (H29 年度 : H27 年度比 2.1 倍)

(2) 住替え(引越し)に係る費用の助成

平成 28 年から計 192 件を助成

(3) 火災に強い建築物への建替えに係る助成

平成 18 年から計 460 棟に助成 (H29 年度 : H27 年度比 10.3 倍)

3. 共同化による建替えの支援

単独で建て替えが難しい複数の老朽建築物等の共同住宅への建替えを支援。防災街区整備事業として、全国で唯一 2 例の実績がある。

(1) 荏原町駅前地区 (H24~H28、完了) RC 造 18 階建て 55 戸

(2) 中延二丁目旧同潤会地区 (H26~H31 予定、整備中) RC 造 13 階建て 195 戸



道路・広場整備前



道路・広場整備後

◇事業予算

3,684,627 千円

(内訳)	社会基盤の整備に関するもの (密集住宅市街地整備促進事業・防災生活圏促進事業・避難道路機能強化事業)	546,542 千円
	除却、建替え等の支援に関するもの (木密地域不燃化10年プロジェクト・都市防災不燃化促進事業)	1,768,519 千円
	共同化への支援に関するもの (防災街区整備事業)	1,336,825 千円
	木密連担地域改善事業等	32,741 千円

問い合わせ：都市環境部 木密整備推進課長 電話 03-5742-6778

耐震改修工事費等助成金の拡充

◇事業目的

耐震改修工事費等の助成金を拡充し、建築物の耐震化を促進することで、震災時の倒壊から区民の生命や財産を守るとともに、避難経路の確保や火災の火元にならないなど、安全・安心な市街地環境の形成を図る。

◇事業内容

1. 小規模マンション耐震化助成金の拡充

対象：床面積 1,000 m²未満、3階以上の分譲マンション

	拡充後	拡充前
耐震診断	費用の 1/2 上限 1,000 千円	費用の 1/2 上限 100 千円
補強設計	費用の 2/3 上限 1,000 千円	費用の 1/2 上限 200 千円
改修工事	費用の 1/3 上限 10,000 千円	費用の 1/1 上限 1,500 千円

2. 特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化助成金の拡充

【補強設計】

拡充後	拡充前
費用が 6,000 千円以下の場合 費用の 5/6	費用が 3,000 千円以下の場合 費用の 5/6
費用が 6,000 千円超、12,000 千円以下の場合 費用の 1/2+2,000 千円	費用が 3,000 千円超、6,000 千円以下の場合 費用の 1/2+1,000 千円
費用が 12,000 千円超の場合 費用の 1/3+4,000 千円	費用が 6,000 千円超の場合 費用の 1/3+2,000 千円

【改修工事】

拡充後	拡充前
費用が 75,000 千円以下の場合 費用の 5/6	費用が 37,500 千円以下の場合 費用の 5/6
費用が 75,000 千円超、150,000 千円以下の場合 費用の 1/2+25,000 千円	費用が 37,500 千円超、75,000 千円以下の場合 費用の 1/2+12,500 千円
費用が 150,000 千円超の場合 費用の 1/3+50,000 千円	費用が 75,000 千円超の場合 費用の 1/2+25,000 千円

(例) 床面積 3,000 m²の場合

- ・補強設計 助成上限額 約 5,500 千円から約 7,250 千円 (約 1.3 倍)
- ・改修工事費 助成上限額 約 75,000 千円から約 100,000 千円 (約 1.3 倍)

◇事業予算 267,000千円 (拡充分)

(内訳) 小規模マンション (診断 10 棟、設計 2 棟、改修 2 棟) 32,000 千円
特定緊急輸送道路沿道建築物 (設計 20 棟、改修 8 棟) 235,000 千円

問い合わせ：都市環境部 建築課長 電話 03-5742-6766



【新規】体験型環境学習施設

～ “みんなで創る環境都市 しながわ” を目指して～

◇事業目的

地球規模の温暖化を背景に、国内では環境に対する学びへの需要が高まっている。未来をつくる担い手である子どもたちと、子どもを支える人たちをターゲットに、環境を体感して学べる施設を戸越公園内に設置する。

◇事業内容

「みんなで創る環境都市 しながわ」を目指し、環境意識の啓発と積極的な情報発信を行う。幅広い年齢層の区民を対象に、体験型環境学習を重視した施設とする。

1. 機能

- (1) 体験学習機能：暮らしを起点として様々な環境を体験・体感することにより、わかりやすく、楽しみながら学ぶ。
- (2) 情報発信機能：最新の環境情報や地区情報等を発信することにより、来館者の環境意識を啓発する。
- (3) 交流・連携機能：家族や友人などと参加できる各種講座の実施や緑化ボランティアの育成等を行う。

2. スケジュール

- (1) 平成 30 年度 コンセプト案の検討、展示物案の検討
- (2) 平成 31 年度 展示物設計
- (3) 平成 32 年度 展示物工事
- (4) 平成 33 年度中 オープン

◇事業予算

10,900千円		
(内訳)	建物設計費用	7,400千円
	展示物基本計画費用	3,500千円

◇連携事業

戸越公園管理事務所改築事業(公園課)

問い合わせ：都市環境部 環境課長 電話 03-5742-6748
防災まちづくり部 公園課長 電話 03-5742-6531

【新規】雑がみ回収大作戦 ～古紙リサイクルの推進～

◇事業目的

近年、古紙のリサイクルについては住民意識の向上により資源回収が進んでいるが、家庭から出された可燃ごみの中には、まだ資源として再生利用できる、「雑がみ」といわれる紙類が約1割混ざっている。

より一層ごみ発生を抑制し、リサイクルを推進するため、町会・自治会など地域の団体がやっている集団回収において、雑がみを新たな回収品目とし、区民の分別意識の向上を図る。

◇事業内容

雑がみを回収品目として取り扱い、収集実績があった月に、収集した団体へ協力金を支給する。

雑がみ

家庭から発生する古紙のうち、新聞・雑誌・ダンボール・紙パック以外のもの

●雑がみとして回収できるものの例

お菓子や食品類の箱、紙袋、包装紙、封筒など



●回収できないものの例

食べ物で汚れた紙、洗剤などのおいがついた紙、シートなどの感熱紙、複写伝票などのカーボン紙、光沢がある紙など



◇事業予算

(内訳)

5,980千円

回収団体への協力金

5,850千円

案内ちらし作成費

130千円



シェアサイクル区内全域展開へ

◇事業目的

東京 2020 大会に向けて、観光スポットへのアクセス性向上と新たな交通手段として、シェアサイクルの社会実験を拡大実施する。

◇事業内容

平成 29 年度整備予定の 18 ポート・200 台に加え、27 ポート・300 台を増設する。京浜東北線東側（臨海部）を整備後、区内全域展開へ展開していく。また、自区内運用のシェアサイクルから他区との乗り入れが可能となる広域相互利用を目指す。

1. 実施方法 品川区（事業主体）と㈱ドコモ・バイクシェア（運営主体）が協働で事業を行う。
2. 対象エリア 京浜東北線より東側（臨海部）を整備後、区内全域展開へ
3. 設置場所 公共施設、道路、公園、公開空地等
4. スケジュール 平成 31 年 3 月までに 27 ポート・300 台増設
※広域相互利用の準備中

◇事業予算 81,400千円



サイクルポート（品川区役所）



問い合わせ：防災まちづくり部 土木管理課長 電話 03-5742-6781

【新規】水辺のにぎわいを創出「水辺千本桜計画」

◇事業目的

目黒川を始めとした水辺を中心に桜を植え、水辺景観の魅力アップを図るとともに、水辺のにぎわい創出につなげる。

◇事業内容

「水辺千本桜計画」の策定

計画的に桜の植栽を進めるための計画を策定する。区民等から植栽の費用に対して寄付を募るなど、区民が桜に親しみを持ち、共に景観づくりに関わってもらおう手法も併せて検討する。先行して目黒川下流(三嶽橋下流、洲崎橋下流付近)に37本の桜を植栽する。

◇事業予算

18,500千円

(内訳)

水辺千本桜計画策定業務委託

9,500千円

目黒川の桜新植(先行整備37本)

9,000千円



目黒川における桜整備のイメージ



問い合わせ：防災まちづくり部 道路課長 電話 03-5742-6788

【新規】 災害時消えない街路灯

◇事業目的

災害時に地域で停電が発生した場合でも点灯する街路灯を設置し、避難者の安全確保と学校等避難所への誘導を図る。また、街路灯に避難所や広域避難場所を記したシートを貼ることで、平常時からの認識を促し災害時の円滑な避難を可能とする。

◇事業内容

1. 災害時消えない街路灯 50 基設置

(1) 対象場所

学校等避難所全 52 施設の内、改築予定 2 校を除いた 50 施設出入口周辺の区道上

(2) 街路灯概要

停電時の夜間、バッテリーにより自動的に点灯(3 日間点灯可能)

2. 「避難ここ知ーる」 700 カ所設置

避難所・避難場所を記載した標示シート「避難ここ知ーる」を、「災害時消えない街路灯」50 基を含む区内 700 カ所の街路灯に貼る。シートには地図情報をスマートフォン等で読み取れる QR コードを記載する。

◇事業予算

68,890 千円

(内訳)

災害時消えない街路灯整備

65,600 千円

「避難ここ知ーる」設置

3,290 千円

【イメージ図】



問い合わせ：(消えない街路灯) 防災まちづくり部 道路課長 電話 03-5742-6788
 (避難ここ知ーる) 防災まちづくり部 防災課長 電話 03-5742-6694

オリンピック会場周辺のバリアフリー化

◇事業目的

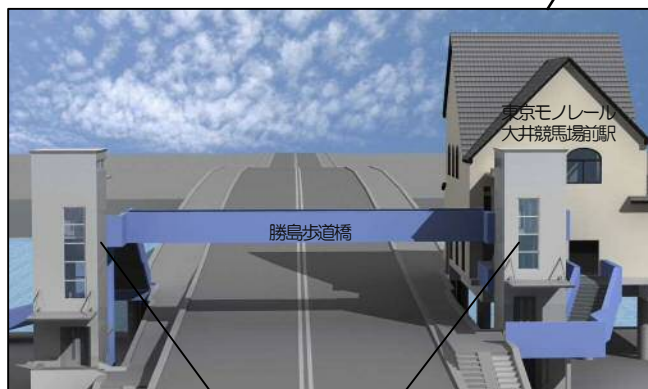
東京 2020 大会のホッケー競技会場周辺をバリアフリー化し、誰もが円滑に安心して歩行できる空間を整備する。

◇事業内容

東京 2020 大会のホッケー競技会場周辺道路を整備する。

1. 内容 無電柱化／車道および歩道の遮熱性舗装／自転車走行空間の整備
バリアフリー化（勝島歩道橋エレベーター整備等）
2. 場所 勝島1丁目5番先～八潮4丁目2番先
3. 期間 平成31年度まで

◇事業予算 1,072,900千円



無電柱化範囲

エレベーター

問い合わせ：防災まちづくり部 道路課長 電話 03-5742-6788



ICT 技術を活用した道路舗装点検

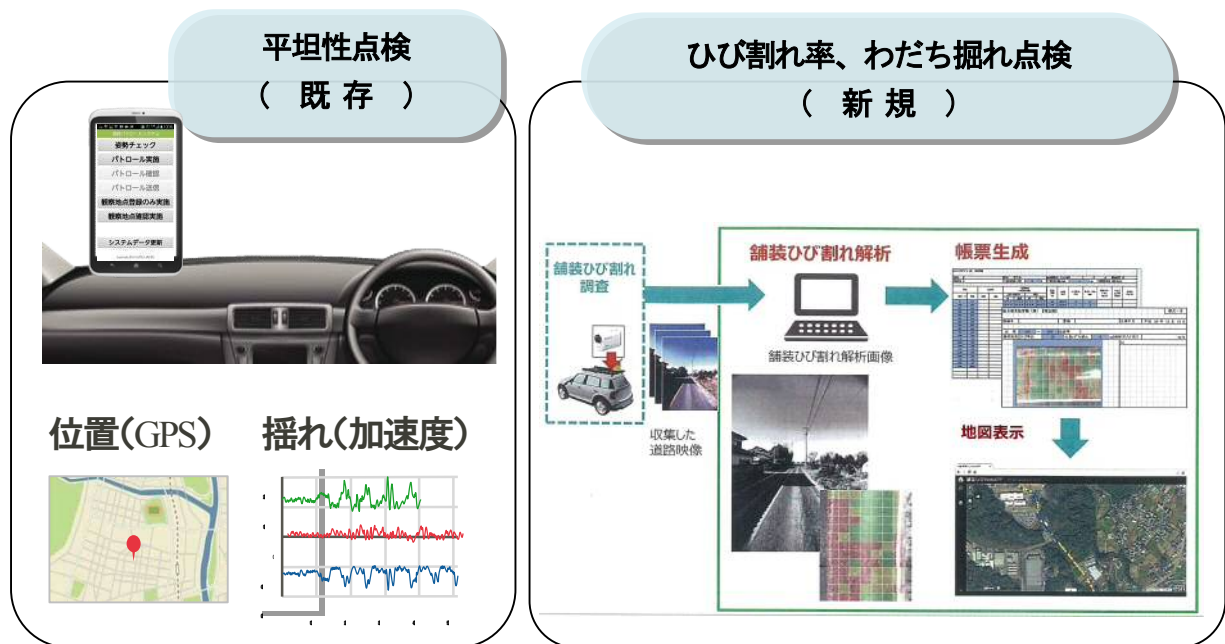
◇事業目的

平成 29 年度から実施している路面段差検知システムの点検情報に加え、新たな ICT (Information and Communication Technology 情報通信や情報処理の分野に関わる技術の総称) 技術を活用した点検調査を実施し、舗装修繕計画を策定して計画的に道路改修を進めていく。

◇事業内容

平成 29 年度から実施している路面段差検知システムの段差情報は、「平坦性」の情報を収集している。新たに車両に車載カメラを搭載し、路面の画像解析により「ひび割れ率」や「わだち掘れ量」を点検し、舗装の長寿命化を含めた「舗装修繕計画」を策定する。

◇事業予算 6, 800 千円



問い合わせ：防災まちづくり部 道路課長 電話 03-5742-6788

防犯カメラ「みまもる君」で公園に安全・安心を

◇事業目的

区民の安全を守る防犯活動への人的対応には限界がある。地域住民の安全・安心と公園における安全対策の強化を図るため、区内全公園を対象に防犯カメラ「みまもる君」(品川区の通称)を設置する。既に設置している防犯カメラに関しては、経年により劣化しているものは新しいものに交換する。

◇事業内容

防犯カメラの設置に関する基準等を精査し、東京都の区市町村立公園防犯設備整備補助事業による補助金を受けて3年間で順次設置していく。

◇事業予算

	68,625千円	
(内訳)	設置調査検討委託	4,800千円
	防犯カメラ設置工事	60,000千円
	記録用SDカード	3,825千円



問い合わせ：防災まちづくり部 公園課長 電話 03-5742-6531



【新規】五反田水辺が結ぶプロジェクト

◇事業目的

五反田地区に舟運の拠点として整備する五反田リバーステーションとその周辺の道路および公園を一体的につなぐことで、核となる水辺のにぎわい創出を図る。

◇事業内容

「五反田水辺が結ぶプロジェクト」を立ち上げ、川と人、住む人と働く人、地域と来街者をそれぞれ結ぶ場所として一体的に整備する。

平成 30 年度は、大崎橋広場とその周辺施設の設計、五反田防災栈橋および五反田南公園の整備工事を実施する。

◇事業予算

258,200千円

(内訳)	五反田水辺が結ぶプロジェクト施設設計委託	25,000千円
	五反田防災栈橋整備工事・施工監理委託	190,000千円
	五反田南公園整備工事・施工監理委託	43,200千円



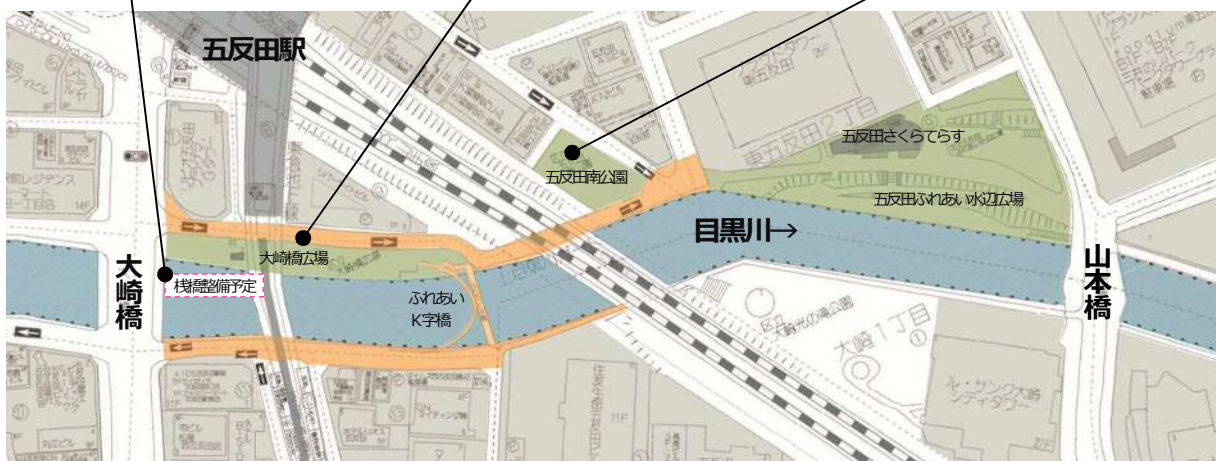
防災栈橋のイメージ



川を眺めるデッキのイメージ



休憩スペースのイメージ



問い合わせ：防災まちづくり部 河川下水道課長 電話 03-5742-6793

【新規】ヒカリノミズプロジェクト

◇事業目的

東京 2020 大会を見据え、区内の水辺が外国人観光客を含めた多くの人でにぎわう観光・交流の軸となることを目指し、橋梁や護岸等の施設を活用したライトアップを実施する。

◇事業内容

平成 30 年度は、目黒川、京浜運河において、橋梁および護岸のライトアップの設計・施工を実施する。

◇事業予算

212,350千円

(内訳)

実施設計委託 (目黒川・京浜運河)

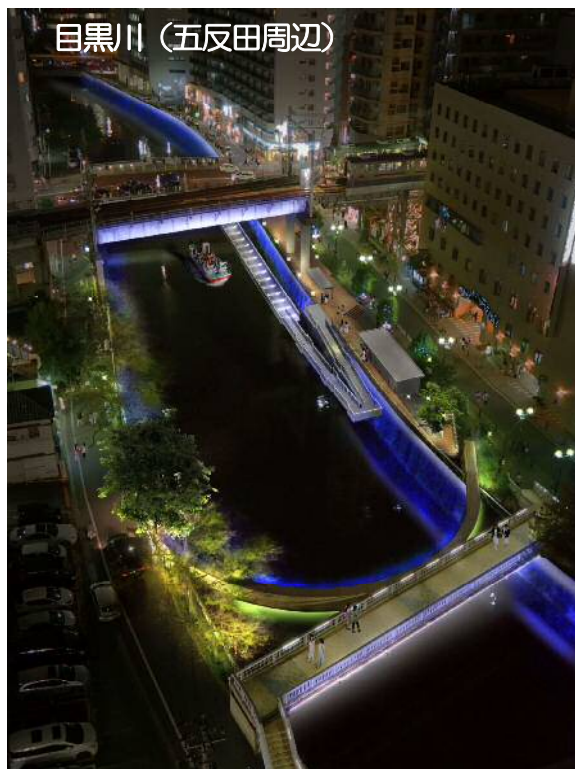
46,000千円

整備工事デザイン監理委託

1,350千円

整備工事 (目黒川・京浜運河)

165,000千円



目黒川 (五反田周辺)



目黒川 (品川橋)



京浜運河 (かもめ橋)

ライトアップイメージ

問い合わせ：防災まちづくり部 河川下水道課長 電話 03-5742-6793



区有棧橋の改修

◇事業目的

区有棧橋を、防災機能としての役割だけでなく、舟運および水辺のにぎわい拠点として再生することを目的に、棧橋のリニューアル整備を行う。

◇事業内容

1. 照明やアクセスサイン等の整備

対象：東海橋防災船着場、しながわ水族館棧橋、品川天王洲棧橋

2. バリアフリー化、安全な乗り降りのための整備

対象：東海橋防災船着場、しながわ水族館棧橋

◇事業予算

22,400千円

(内訳)

改修工事詳細設計委託（東海橋防災船着場、しながわ水族館棧橋） 21,000千円

改修工事（品川天王洲棧橋） 1,400千円



品川天王洲棧橋



東海橋防災船着場



しながわ水族館棧橋

問い合わせ：防災まちづくり部 河川下水道課長 電話 03-5742-6793

【新規】防災体験 VR の導入

◇事業目的

災害時における対応行動をよりリアルに体験できる VR(バーチャルリアリティ)を導入し、しながわ防災体験館や各種防災訓練で活用し、区民の防災意識の高揚を図る。

◇事業内容

1. VR 機器の導入

最新の VR 技術を活用した、よりリアルな災害対応を体験できる VR 機器 4 台を導入

2. 品川区独自の防災コンテンツ開発

(1) 木造住宅編

木密地域における発災直後の初動対応や延焼火災から避難行動等を仮想体験



(2) マンション編

高層マンションの長周期地震動による揺れや道路上へのガラス飛散からの退避行動等を仮想体験



※防災コンテンツ「避難体験 VR」より

3. しながわ防災体験館における体験ブース設置

4. 各種防災訓練等での出張体験コーナー開設



◇事業予算

(内訳)

13,188千円

VR 機器賃貸借 4 台 (既存防災コンテンツ含む)

3,888 千円

品川区版防災オリジナルコンテンツ VR 制作委託

9,300 千円

問い合わせ：防災まちづくり部 防災課長 電話 03-5742-6694

災害時の避難体制強化

◇事業目的

各避難所の運営マニュアルの更新を促進するとともに、区外からの支援物資を避難所に対し円滑に流通させる受援体制を再構築して、避難に関する体制を強化する。

◇事業内容

1. 避難所運営マニュアル更新支援業務

各避難所の施設特性に応じたマニュアルの更新を支援する。

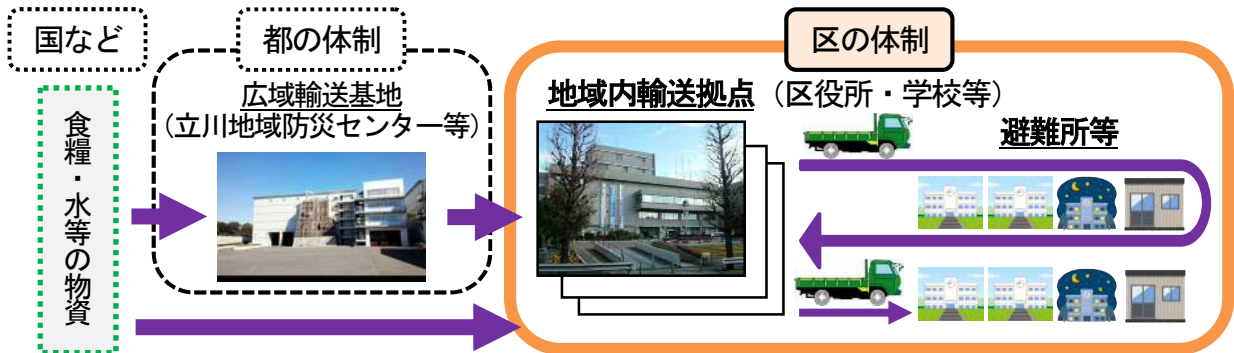
- (1) 各避難所のマニュアルおよび施設・周辺地域の特性を整理・分析
- (2) 「要配慮者」「女性・子ども」「ペット」「プライバシー」といった課題を反映



2. 支援物資受援体制再構築委託

支援物資を受け入れる地域内輸送拠点および輸送体制を見直し、各避難所に対し支援物資を流通させる受援体制を再構築する。

- (1) 現行の地域内輸送拠点を、現地調査を踏まえて整理・分析し、適地を再選定
- (2) 輸送経路や荷役体制、輸送手段の確保など、輸送体制の再構築



◇事業予算

44,500千円

(内訳)

避難所運営マニュアル更新支援業務	35,000千円
支援物資受援体制再構築委託	9,500千円

問い合わせ：防災まちづくり部 防災課長 電話 03-5742-6694